

eひと・eはなし 「四十にして惑わず」



札幌西支部

市田 勝

Masaru Ichida

「吾十有五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして惑わず。五十にして天命を知る。六十にして耳順う。七十にして心の欲する所に従えども、矩を踰えず」

ご存知の方も多いと思いますが、『論語』の章句で、晩年の孔子が自分の人生を振り返って言った言葉とされ、世界一短い、見事な自叙伝と言われております。孔子は、十代で両親と死別し、寂しく厳しい環境の中で学問に生きようと志を立てたのが、十五歳の頃です。三十歳になり自分の学問の基礎ができあがって、やっていく目途が立ちます。学問を志してから十余年。研鑽を積んだことが窺えます。

四十歳で物事の道理を理解し、判断に迷うことがなくなります。

五十歳で天命を理解し、険しい道は続きますが、確実に実績を上げていきます。

六十歳は円熟期、人の言葉を素直に聞けるようになります。

七十歳は究極の境地、自分の思うままに行動をしても道理から外れなくなります。

『論語』が好きで、実践したいと思う私ではありますが、現在四十一歳の不惑の年齢でありながらも、実際は日々結構惑っています。ちょっと先の話ではありますが、次の大台は五十歳。人は皆、何かしらの使命を持ってこの世に生まれてきます。それが天からの使命、天命です。天命を知ったなら、その達成のために力を尽くすのが人生ということになります。五十歳のときには、天命をわきまえることができるように、物事の本質を見極める努力をしていきたいです。